

4月号 表紙の顔

霜出 佳奈

KANA SHIMOIDE

Profile

しもいで かな / 1994年6月19日、千葉県柏市生まれ。163cm。右投げ。血液型O。2017年プロ入り(50期/ライセンスNo.559)。優勝1回(18年グリコセブンティーンアイス杯)。昨年度ポイントランキング3位。



今はただボウリングに全力投球

プロ3年目、今年6月で25歳になる霜出プロは、女優の黒木華に似た明るい健康美人。TVコンテンツ『P★LEAGUE』のメンバーにも名を連ねているので、ご存知の読者も多いだろう。バックスイングのトップ位置が高い、ダイナミックかつしなやかな投球フォームが魅力で、すでに公式戦優勝1回、準優勝4回の実績を挙げている次代のトップ候補だ。

本格的にボウリングを始めたのは小2のころ。当時は両親と兄の家族4人揃って月1ボウリングを楽しむのが恒例行事で、いつしか貯まったセンターの来

場ポイントでマイボールを作ったのが、本格的にはまるきっかけだった。

水野成祐プロ(男子24期)のボウリング教室で素質を見出され、小5でJBCに入会。6年時にはケーゲル(米国フロリダ州)のトレーニングツアーに参加して腕を磨いた。中・高生時代もボウリング中心の生活を送り、全国大会・国際大会を含むアチュア競技会やプロアマトーナメントでの輝かしい戦績は枚挙にいとまがない。

しかしその間には、悲しい出来事もあった。2009年、中3時の全日本中学選手権で見事

優勝を果たすも、翌10年、高校受験目前に父親が病気で急逝したのだ。

「最後にいいところを見せてあげられたのはよかったかなと思います…。父親孝行ができなかった分も、苦勞をかけている母には恩返ししたいですね」

高校(市立柏高国際学科)卒業後は少々“回り道”をした。「高校でいい先生に出会えて好きになった」英語と「ボウリングができなくなったときのため」の資格取得に役立ちそうな、コンピューター技能を同時に学べる都内の専門学校に2年間通い、修了後は大手スポーツ用品メー

カーに就職。外国人客の多い原宿の店舗で販売員を務めていたが、わずか半年で退職してしまう。

「仕事自体は楽しかったのですが、それまで週5で投げていたのが、週1になってしまって…。『ボウリングがしたい』『大会にも出たい』という気持ちが、仕事の楽しさに勝りました」

一転してプロの道を目指すことに周囲の反対はなく、17年度のプロテストに晴れて合格、デビュー後の活躍は前述のとおりだ。

「今はボウリングを頑張ることしか考えていません」と霜出プロ。初タイトルを獲得した昨年は、最終ランキングも3位と飛躍の一年に。当然ながら今年はその以上の結果を求められるが、本人の思いはまったく別のところにある。

「周囲に期待されるのはうれしいけど、今はまだ足りないことだらけで、具体的な目標を口にするだけの自信はありません。だからもっと練習しなきゃいけないし、先輩からも学べるものは貪欲に学んで、一つひとつの大会から何かしらの収穫を得るような一年にしたいですね」

本来は負けず嫌い。いずれは「相手に『あの人とは対戦したくない』と思わせるような絶対的強さ」を身につけたいそうだ。



霜出プロと一緒に投げよう！
近日開催のチャレンジマッチ

- 4月23日&24日
宮城・ボウルグルーバース
ペガロボリス仙台南店(トリオ戦)
- 4月28日
埼玉・ジョイナスボウル
- 5月1日
神奈川・相模原パークレーンズ

転球 Time Trip

58年前に

ハイテク・ボウリング機が東京国際見本市に初登場！

1961年(昭和36年)4月17日に東京・晴海の東京国際見本市会場(96年閉場)で開催した「第4回東京国際見本市」は、民間第1号の東京ボウリングセンター(港区青山)誕生から10年目に突入した日本ボウリング界のさらなる発展を確信させるイベントとなった。米国2大メーカーのAMFとブランスウィックがそれぞれ開発した、ピンセットの最新自動式設備が初披露されたのだ。

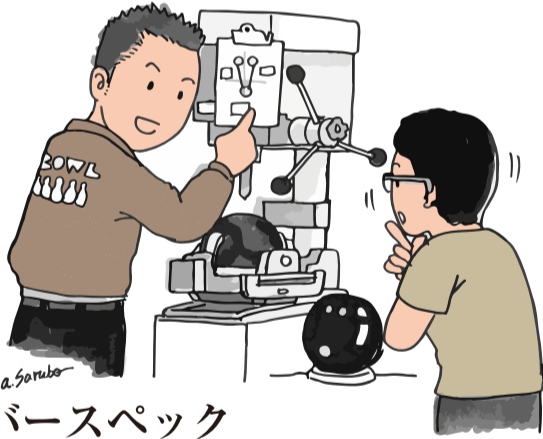
それまでのボウリングは、“ピンボーイ”と呼ばれるスタッフが、各レーンのピンデッキの裏側に配置され、プレーヤーの投球ごとに手作業でピンをリセットし、ボールをリターンしていたが、見本市に登場したAMF社製の「ピンスポッター」とBW社製の「ピンセッター」は、その作業をすべて機械が行うのだ。前者が電子頭脳操作、後者は機械式操作という違いはあったが、いずれも素早く正確に作動し、詰めかけた多くの来場者を驚嘆させた。

また、同見本市には当時の皇太子殿下(この4月に退位される今上天皇)も来臨され、画期的なハイテク・ボウリングマシンを熱心に見学される様子が多数のメディアで報じられたことも、ボウリング界にとっては大きな追い風となった。



▲最新のマシンに興味深くご覧になられる当時の皇太子殿下

にいほりぞかゆき 新堀孝之プロのテクニカルトーク なるほどや!



オーバースペック

比較的新しい生徒さん(レッスンのお客様)のボールセッティングについて、今日は話してみようと思います。もちろん私のコラムは毎回読んでくれていて方なので、本人には了承を得てのお話です。

昨年末ごろに、ある方からの紹介でレッスンをさせていただく縁となりました。本格的に始めたという意味でのボウリング歴は2年弱で、アベレージは160~170ぐらいということでした。40歳代の男性で、本人いわく無類のギア好きとおっしゃっていました。

そして最初のレッスンのときです。ティーチングの方向性や投げ方を拝見する以前に、彼のボールバッグから出てくるボー

ルラインナップを見て、かなりの違和感を覚えました。たしかトリプルバッグと、ダブルバッグが2個だったように記憶しています。要するに合計7個のボールを、レッスン時に持参してきたわけです。

別に多くのボールを持ってるのがどうこうということではなく、そのラインナップとドリルレイアウトに疑問を感じたのです。それは、各メーカーから発売されているハイパフォーマンスボールばかりで、われわれプロボウラーが使用するレベルのボールばかりでした。そのうえ、彼のPAPをしっかりと把握する前でしたが、たぶんピンレイアウトが60度~75度程度のドリリングのボールで…表面

仕上げも、どれを見てもピカピカのシャイニーでした。

無類のギア好き！といっていたとおりで、プロボウラーがセッティングするような、それも曲がり強いタイプの男子プロが好むようなラインナップでした。そしてレッスンが終わり彼のボウリングを見て思ったことが、現状の彼からすると、オーバースペックのボールばかりだなあ…と思ったわけです。

ボールというのは、ボウラーにとっていちばんの武器なわけですが、人それぞれそのレベルに合った適正の道具というものがああります。そういう意味では、そんなにフックパワーがない彼の現状を考えると、間違いなく彼のボールセッティングは『オーバースペック』といえました。現段階での彼にとっては、過剰性能のボールということになり、厳しい言い方をすれば、宝の持ち腐れといえるかもしれません。

ここで読者の皆さんにもお伝えしたいのは、われわれプロボウラーのボールセッティングや、ピンレイアウトを、そのまま真似をするのではなく、アベレージボウラーの方には、そのレベルにマッチしたボールやドリルをオススメします。その彼も、その後ボールとドリルを新たにしました。スコアもグングン上がっています(^^)